

2021 年度 シラバス

<b>科目名</b> 認知教育特論 (R3 認定通信)	<b>単位数</b> 4 単位	<b>担当教員</b> 伊藤一美
<b>テキスト</b> ①市川伸一(編)(2010)「現代の認知心理学 5 発達と学習」北大路書房 ②宮本信也(編)(2019)「学習障害のある子どもを支援する」日本評論社		
<b>科目の概要</b> 本科目では、認知と発達をキーワードに、読むこと、書くこと、数の理解と計算の発達過程について学び、知的障害を含む発達障害のある子どもを中心に、学習上のつまずきに対応した支援方法を検討できる力をつけることを目指す。ここでは、読むこと、書くこと、数と計算という教科教育の基本となる認知能力に焦点をあて、国語と算数の学習支援のあり方について、最新の知見を踏まえて、研究を深めることを目標とする。この科目をとおして、知的障害を含む発達障害のある子どもだけではなく、すべての子どもを中心におき、教育の公正性とインクルーシブ教育について、理解を深めることを期待する。		

**I 科目の目的・ねらい**

文部科学省「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)平成24年7月」には、すべての学校種の教員に発達障害の知識・技能が必要とされることが明記されている。そこで、本科目では知的障害を含む発達障害のある子どもに焦点をあてる。とくに学習上に特異な困難を示す読み書き障害、算数障害について、最新の知見を踏まえて理解を深め、文部科学省「障害者活躍推進プラン(平成31年1月21日～)」が目指す、公正で個別最適化した学びについて研究することを目指す。

この授業の具体的な到達目標は、以下の5つである。

1. 読むこと書くことの発達過程を理解する
2. 数と計算の発達過程を理解する
3. LD(限局性学習症,学習障害)の概念およびアセスメントを理解する
4. 読み書き障害と算数障害の概念およびアセスメントを理解する
5. 根拠に基づく学習支援のあり方を研究する

**II 授業計画と評価**

**科目修得試験**

本科目は、評価は「レポート評価」(50%)、「科目修得試験」(50%)の割合で総合して評価する。

全15回の授業計画は以下のとおりである。

第1回 本科目の内容・学び方について学ぶ

第2回 「言語力の発達過程」を学ぶ 《テキスト①第1章・宇野彰先生の動画》

第3回 「数量概念の獲得過程」を学ぶ 《テキスト①第2章》

第4回 「さまざまな認知機能の発達」を学ぶ 《テキスト①第4・5・6章》

- 第5回 「教科学習の理論」を学ぶ 《テキスト①第7章》
- 第6回 「さまざまな学習と教育」を学ぶ 《テキスト①第8・9・10・11章》
- 第7回 「認知心理学と教育実践」を学ぶ 《テキスト②第12章》
- 第8回 LD(限局性学習症,学習障害)の概念を学ぶ 《テキスト②第1・2・3章》
- 第9回 読み書きのつまずき・発達性読み書き障害を学ぶ《テキスト②第4・5章・宇野彰先生の動画》
- 第10回 数と計算のつまずきと算数障害を学ぶ 《テキスト②第6・12章》
- 第11回 LDのある子どもの英語学習を学ぶ 《テキスト②第7章》
- 第12回 LD(限局性学習症,学習障害)の評価を学ぶ 《テキスト②第8章》
- 第13回 LDのある子どもの学習支援を学ぶ 《テキスト第9・10・11・14章》
- 第14回 ワーキングメモリと学習支援について学ぶ 《テキスト第13章》
- 第15回 まとめ 根拠に基づく学習支援について研究する
- 科目修得試験

### Ⅲ 学修の流れ

- (1)指定のテキストと動画を通して、学習指導書に示す<テーマ①から⑤>の学修を進める。
- (2)「IVレポート課題」のテーマにそってレポートを作成し、学生ポータルサイトより提出する。
- (3)科目修得試験の申し込みをする。
- (4)レポート合格後、科目修得試験を受験する。

### V 参考文献

大津 由紀雄(編)(1995)「認知心理学 3 言語」東京大学出版会

吉田 甫(2003)「学力低下をどう克服するか—子どもの目線から考える」新曜社

その他、参考の動画を専用学修サイトで適宜閲覧してください。

### VI その他

この科目をとおして、教育の公正性とインクルーシブ教育について、理解を深めることを期待します。